

## 解説篇

今回の調査結果の主な特徴

## 今回の調査結果の主な特徴

### 1. 県内貿易企業の概要

貿易実績のある企業（以下、貿易企業）133社の内訳をみると、輸出を行っている企業（以下、輸出企業）は89社、輸入を行っている企業（以下、輸入企業）は103社、そのうち両方行っている企業（以下、輸出入企業）は貿易企業全体の44.4%にあたる59社でした（表Ⅰ-1）。

#### a. 富山市、高岡市に集中する貿易企業

貿易企業の所在地分布をみると、富山市（39.8%）、高岡市（16.5%）で全体の5割余りを占め、次いで射水市（10.5%）、黒部市（6.8%）、滑川市（6.0%）となりました。（表Ⅰ-2）。

#### b. 県内貿易企業の7割強が製造業

貿易企業の業種別内訳は、貿易企業133社のうち製造業が104社で全体の78.2%を占め、卸売業が15社で同11.3%、サービス業が6社で同4.5%でした（表Ⅰ-3）。

製造業比率は、輸入で73.8%、輸出で87.6%と、輸出入ともに圧倒的に高い水準です（下表）。また、製造業のうち輸入を行っている企業の業種は、1位は医療品・化粧品、2位は一般機械・電子部品、続いて木材・木製品、繊維・衣料品の順でした。

輸出を行っている企業の業種は、1位は医療・化粧品、2位は一般機械・部品、3位は非鉄金属製品、4位は化学製品の順でした。

輸入では、前回調査でトップであった食料品製造業に代わり医療・化粧品製造業(前回調査2位)となっています。また輸出でも、医療・化粧品(前回調査9位)の伸びが顕著となっています。（表Ⅱ-1、Ⅲ-1）。

表 貿易企業の業種内訳（貿易企業全体、輸入企業、輸出企業別）

（単位：件、%）

	貿易企業全体		輸 入		輸 出	
	件数	%	件数	%	件数	%
製造業	104	78.2	76	73.8	78	87.6
建設業	3	2.3	3	2.9		0.0
卸売	15	11.3	14	13.6	8	9.0
小売	5	3.8	5	4.9		0.0
サービス	6	4.5	5	4.9	3	3.4
回答事業数	133	100.0	103	100.0	89	100.0

c.アジア中心ではあるが、貿易相手国は世界各国

貿易相手国の上位 5 カ国は、輸出については、中国、台湾、韓国、タイ、米国でした（表 I-7）。2009 年の前回調査と比べると台湾と韓国が逆転するなど多少の順位の変動があります。また輸入については、中国、韓国、台湾、米国、タイとなっています（表 II-5）。

表 貿易相手国・地域の推移(08 年度の調査結果との比較)

(単位:%)

	輸 出			輸 入			全 体
	08 年度	12 年度	増減	08 年度	12 年度	増減	12 年度
アジア全体	68.2	65.9	▲ 2.3	65.0	67.7	2.7	64.8
中国	18.7	16.9	▲ 1.8	31.4	25.4	▲ 6.0	19.3
韓国	11.6	9.1	▲ 2.5	10.3	11.2	0.9	10.2
台湾	9.6	9.4	▲ 0.2	5.8	7.7	1.9	8.1
タイ	6.8	7.5	0.7	4.4	4.6	0.2	6.2
シンガポール	4.0	3.6	▲ 0.4	0.7	0.8	0.1	2.5
ベトナム	3.7	4.5	0.8	2.4	3.5	1.1	4.2
インドネシア	4.2	3.2	▲ 1.0	3.8	3.8	0.0	3.3
マレーシア	3.4	3.9	0.5	2.8	2.3	▲ 0.5	3.1
フィリピン	2.8	2.6	▲ 0.2	0.7	1.2	0.5	1.9
インド	2.5	3.2	0.7	2.4	3.8	1.4	3.1
その他アジア	0.9	2.0	1.1	0.3	3.4	3.1	2.9
欧州	16.7	16.2	▲ 0.5	19.1	18.5	▲ 0.6	18.3
ドイツ	1.6	3.2	1.6	2.6	3.5	0.9	3.3
北米	8.7	8.5	▲ 0.2	11.3	8.1	▲ 3.2	8.6
アメリカ	2.1	7.5	5.4	1.7	6.2	4.5	6.9
中南米	2.3	2.3	0.0	0.7	1.2	0.5	1.8
大洋州	2.8	4.2	1.4	3.4	1.5	▲ 1.9	3.3
その他地域	1.3	2.9	1.6	0.5	3.0	2.5	3.2

※比率は、輸出・輸入実績があると回答した企業数のうち、相手国を回答した企業数の割合（貿易相手国は重複回答有）。

## 2. 2012年の貿易

### (1) 輸入

#### a. 国内景気回復を受け、輸入増が輸入減を上回る

輸入実績があると回答した企業 103 社（複数回答あり）のうち、41 社（39.8%）の企業が前年に比べ増加したと回答し、減少したと回答した企業は 24 社（23.3%）でした。また変化なしと回答した企業は 34 社（33.0%）ありました（表Ⅱ-13）。

輸入増加の理由として最も多い回答は「国内需要の増加」で、回答企業 41 社の内、26 社（61.9%）が上記理由となっています。ほかには「国内調達の困難化」（6 社）、「輸入価格の低下」（3 社）、「輸入品の品質向上」（2 社）などの回答もありました。

また、減少したと回答した 24 社のうち最も多い理由は「国内需要の減少」（19 社、73.1%）で、ほかに「輸入品のコスト高」（3 社）、「国内調達の易化」（2 社）の理由がこれに次ぎました（表Ⅱ-14,15）。

業種別にみると、製造業のうち医療品・化粧品、その他の製造業などで、輸入増となったと回答した企業数が多く、目立っています。また繊維・衣料品、一般機械・部品などでも、輸入増となり輸入減と回答した企業数を上回っています（表Ⅱ-13）。

半製品・原材料の輸入をみると輸入実績があると回答した企業 103 社のうち、104 社（34.0%）の企業が製品を、86 社（28.1%）の企業が半製品・部品を、116 社（37.9%）の企業が原材料を輸入しています（数字は重複回答形式）。輸出に比べ、半製品・部品と原材料を輸入する企業の割合が多くなっています（表Ⅱ-2、Ⅲ-2）。

#### b. 輸入元として注目されるタイ、ベトナム

今後輸入元として希望する国・地域は、タイ、ベトナム、台湾が比較的多く、次いで韓国、マレーシア、インド、ミャンマーなどが挙げられました（表Ⅱ-18）。

一方、輸入に関する課題としては、「為替リスク」（55 件）を挙げる企業が最も多く、「品質のばらつき」（47 件）、「不安定な納期」（33 件）、「輸送コスト」（20 件）と続き、これらが輸入の不安要因となっていると言えます（表Ⅱ-16）。

#### c. アジア及び西欧からは直接輸入が中心、ロシアからは間接輸入の比率が高い

輸入形態別にみると直接輸入のみと回答した企業が 134 件（52.1%）、間接輸入が 85 件（33.1%）、直接・間接併用が 38 件（14.8%）でした。（表Ⅱ-4）。

国・地域別にみると、アジアからの輸入においては、直接輸入が多いのが目立ち、またヨーロッパ主要各国からの輸入も直接輸入が間接輸入を上回っています。

これに対して、ロシアからは直接輸入と回答した企業はなく、間接輸入と直接・間接併用などと回答がありました。（表Ⅱ-4）。

輸入相手国別では、中国（65 件、25.3%）が一番多く、これに次いで韓国（28 件、10.9%）、台湾（20 件、7.8%）となっています。

また中国から輸入していると回答した企業を業種別にみると、製造業のうち、医療品・化粧品、繊維・衣料品のほか、その他製造業が多く、また製造業以外でも、卸売業（9件）、小売業（4件）、サービス業（3件）の輸入ケースがあります。（表Ⅱ-5）。

## （2）輸出

### a.世界の景気後退で5割強が輸出減少

輸出実績があると回答した89社のうち、41社（46.1%）の企業が前年に比べ増加したと回答しました。一方減少したと回答した企業は21社（23.6%）となりました。また変化なしと回答した企業は27社（30.3%）ありました（表Ⅲ-13）。

輸出増加の理由として最も多い回答は「新規得意先の開拓」で、回答企業41社のうち14社が挙げており、次いで「輸出先の需要増加」（13社）、「海外拠点の生産拡大」（7社）となっています（表Ⅲ-14）。

また増加したと回答した41社の製造業を業種別にみると、医療・化粧品、非鉄金属、電気・電子部品が多かったものの、その他の製造業は8社と突出しています（表Ⅲ-14）。

一方、輸出が減少した企業21社の減少理由は、「輸出先の需要減少」（8社）で、ほかに「国内外の同業との競合の激化」（3社）などが挙がっています（表Ⅲ-15）。

### b.全般的に製品輸出が中心 電気電子機器部品では半製品・部品も

輸出実績があると回答した89社（輸出案件378件）のうち、64.6%の244件が製品輸出で、半製品・部品（71件、18.8%）、原材料（63件、16.7%）より多いことが分かりました（数字は重複回答形式）。製品輸出が多い業種は、医療・化粧品、一般機械・部品、科学製品の順で、その他の製造業も多いことが分かりました（表Ⅲ-2）。

### c.日本海沿海地域が富山県の主要輸出先

輸出企業89社の輸出先地域は、アジア203件（うち中国が52件）、西欧44件、東欧6件、北米26件、大洋州13件、その他の地域16件となっています（表Ⅲ-5）。

アジア諸国、とりわけ日本海沿海部（中国、韓国、台湾）を主要輸出先として挙げた回答が多い点は、富山県の輸出の特徴と言えます。

今後の輸出先として希望する地域では、アジア30件、欧州7件、北米2件などとなっています（表Ⅲ-18）。本調査結果を前回調査と比較すると、中国（17件→2件）、米国（8件→1件）への輸出を希望する企業が減少する一方、タイ（2件→6件）、台湾（0件→3件）、フィリピン（0件→3件）などの東南アジアへの輸出を希望する企業が増えている傾向にあります。

また、今後の輸出に関する課題としては、前回調査同様、「為替リスク」（30件、前回調査47件）が1番となっており、「国内外の同業との競合」（23件）、「輸送コスト」（22件）、「相手国の輸入規制」（20件）、「現地の情報不足」（17件）の順でした（表

Ⅲ-16)。

### 3. 港湾利用について

#### a 伏木富山港の利用状況

富山県内企業が利用する港湾は、地元の伏木富山港が 23.1%と最も多く、名古屋港(17.2%)、神戸港(13.9%)、大阪港(13.1%)、横浜港(10.0%)も利用されています(表Ⅳ-1)。

輸出入別にみると、輸出では、伏木富山港と神戸港がともに 20.9%と最も多く利用され、続いて名古屋港(18.7%)、横浜港、大阪港(ともに 11.5%)となっています。

また輸入では、伏木富山港が(25.1%)、名古屋港(15.9%)、大阪港(14.5%)、東京港(9.2%)、横浜港(8.7%)と続いています。(下表)。

伏木富山港を利用する理由としては、「他港に比ベトータルコストが安い」、「現状の航路の利便性が高い」との回答が多くありました(表Ⅳ-10,11)。

表 輸出入で利用する港湾の順位(複数回答)

(単位:%)

輸出港			輸入港		
1位	伏木富山港	20.9	1位	伏木富山港	25.1
2位	神戸港	20.9	2位	名古屋港	15.9
3位	名古屋港	18.7	3位	大阪港	14.5
4位	横浜港	11.5	4位	東京港	9.2
5位	大阪港	11.5	5位	横浜港	8.7
6位	東京港	6.6	6位	神戸港	7.7

#### b. 伏木富山港の利用比率向上にむけて

富山県内の輸出入案件のなかで伏木富山港を利用したことのないケースが輸出で 51.9%、輸入で 41.3%となりました(表Ⅳ-2)。伏木富山港を利用しない理由の上位4つは、「利用したい航路がない、あるいは便数が少ない」、「間接貿易であり、商社が港湾を選択している」、「荷主が他の港を指定している」、「貿易窓口である本社、親会社等が他の港を選択している」です(表Ⅳ-14)。

また、どのような条件が整えば伏木富山港を利用したいかという問に対しては、「海上輸送時間の短縮」(33件)、「海上運賃・保管費等の引き下げ」(32件)との回答が多く、

次いで「本社や親会社、商社による意思決定」(25件)、「既存航路の増便」(16件)、との回答がありました(表IV-16)

以上